

空(くう)について

死生学研究会資料■④2010/3/20

①原始仏教(前5C~前4C頃)…開祖・釈迦。修行により、悟りを求める宗教(超越者は存在しない)。

空(くう)とは、「あるものにある性質が欠けている…固定的な実体がない」という意味。

諸法無我：あらゆるものは、縁起(因縁生起)で生じ、実体のあるものはない(原始仏教)。

②大乘仏教(前1C~後4C)…自利(悟り)は利他(救済)の実践で得られる。超越者(仏陀)あり。

(後2C頃、説一切有部という部派は、あらゆるものは実在するという実有論を展開した。)

◆ナーガールジュナ(竜樹：150~250頃)：部派仏教の実有論に対して「全ては空である」と主張。

竜樹の考え：宇宙的仏陀を唯一認め、他のものは、縁起(因縁生起)によって生滅を繰り返すから、固定的、絶対的なものはなく、空である(例：蕾→花→実に変化)とした。

◆般若経：大乘仏教では、この「空」の思想が説かれたお経全てを、般若経と呼び、その中に玄奘三蔵(7C)訳の大般若経(600巻)や般若心経(262文字)がある。般若心経の中に「色即是空、空即是色…」があり、「空」が説かれている。

◆唯識思想：空の思想では、固定的な実体はないと主張したが、形ある存在(色)は認めていた。

(3C~4C)

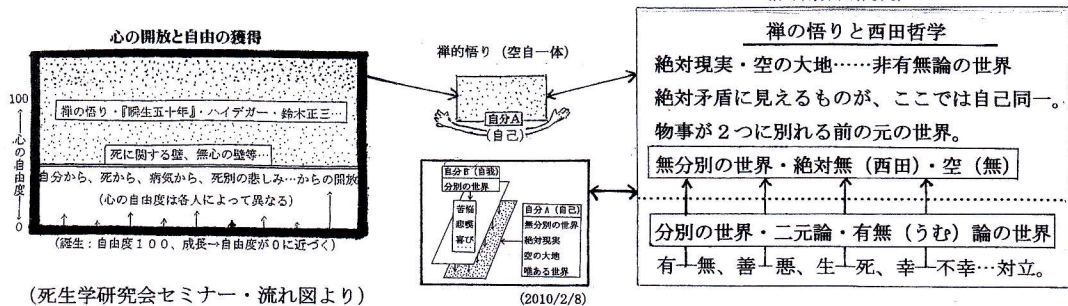
中期大乘仏教：外界の形ある存在は、心が作る幻想であるとする「唯識思想」が現れた。

③鈴木大拙(1870~1966)：禅についての多くの著作を英語で著し、禅を世界に紹介。禅→悟り。

即非の論理(般若)：「AはAではない、それ故にAはAである」→「Aは非Aであり、それによってAはAである」…矛盾が矛盾ではない。

西田幾多郎(1870~1945)：純粹経験→絶対無→絶対矛盾の自己同一。

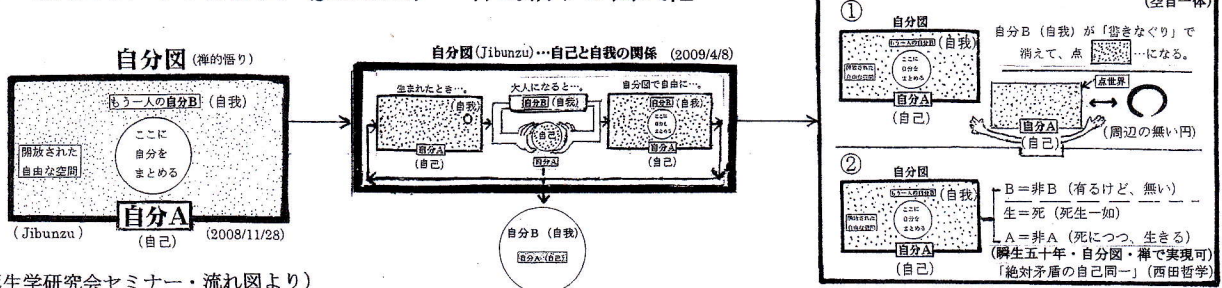
(禅や自分図で体験可)



(死生学研究会セミナー・流れ図より)

(2010/2/8)

④内田 誠(1941~)の自分図(Jibunzu)…禅的悟りの図式化



(死生学研究会セミナー・流れ図より)

⑤補足：老荘思想(前5C~4C頃)→老子と、老子の思想を深化させた荘子の思想で、一切の差別や対立をこえた「絶対無の境地」を説き、無為にして自然に生きることを理想にした。

弁証法(ヘーゲル・1770~1831)：正→反(否定)→合…2つの対立する立場をともに認め、両者をより高次の立場で総合する。禅の悟りは、弁証法とは異なる(鈴木大拙)。

西田幾多郎(西田哲学)：禅を哲学的に論理化した。

参考文献：鈴木大拙(現代日本思想体系 8・筑摩書房)、日本の宗教(田中治郎著・日本文芸社)、

仏教(渡辺照宏著・岩波新書)、魂は千の風になりますか?(ひろさちや著・幻冬舎)、

犀の角たち(佐々木閑著・大蔵出版)、死に直面したあなたに(内田 誠著・死生学研究会)。

死生学研究会

Thanatology Research Center

TEL 042-624-1355